

「やさしい日本語」を広める会

保育・幼児教育施設へのアンケート結果のまとめ

2022年2月7日

2021年11月上旬より保育・幼児教育施設向けの「やさしい日本語」のリーフレットを作成・配布すると同時に、アンケートをお願いしましたところ、多くの施設よりご回答いただきました。誠にありがとうございました。これまでにいただいたアンケートの結果をまとめましたので、ここにお送りいたします。

アンケートの回答を整理・分析することで、職員の皆さまが、外国人保護者や外国につながる園児と現実にはどのようなコミュニケーションをしているのか、どのような工夫やアイデアを実施され、効果をあげているのかを知ることができました。今後の、「やさしい日本語」の普及活動等に活用させていただきます。

この「アンケート結果のまとめ」が、皆さまの施設においてもコミュニケーションを取られる際の参考になれば幸いです。

【対象とした施設】

京都市上京区の保育・幼児教育施設、つどいの広場、その他の行政区の保育・幼児教育施設、子育てサロン等
計 94 施設

【回答件数】

29 件（2022年2月7日現在）

【現在、外国につながる園児のいる施設】

21 施設

【過去 10 年間に外国につながる園児のいた施設】

26 施設

【過去 10 年間から現在まで、外国につながる園児のいない施設】

2 施設

【「やさしい日本語」について】

聞いたことが ある 10 施設 ない 19 施設

園児とのコミュニケーションでの使用言語

- 全ての施設で、主として使用しているのは日本語であった。
- 日本語と併せて、英語や園児にとっての第一言語を使っている事例もあった。

保護者とのコミュニケーションでの使用言語

- 日本語以外で使用されていたのは英語が多く、中国語、韓国語、親の第一言語という事例もあった。
- 日本語がわかる家族と話したり連絡帳などで伝えるという回答もあった。
- 両親ともに外国人の場合では、園児の兄弟のほうが日本語がわかるので、電話は兄弟に頼るという回答もあった。
- 外国語の会話については、カタコトであったり、たまたまその言語がわかる他の保護者の助けを借りる、中国語の場合は漢字の筆記で伝える、スマホアプリ等の AI 翻訳を活用している、等、それぞれに工夫がみられた。

コミュニケーションの工夫、うまくいったこと、役に立ったツールなど

- お互いカタコトで話したり、漢字の筆談、翻訳アプリ、他の保護者などで通訳できる方がいれば、その人の助けも借りる。どれも大変だが、打ち解けるきっかけになる。
- 何とか伝えたい、わかり合いたいという姿勢が大事だと思っている。困りごとを押し量るイマジネーションが大事。難しいと考えず、積極的に話しかけるようにしている。
- 表情も含めたジェスチャー。衣類や持ち物は、実物や図（絵）で示す、写真をタブレットで見ってもらうなど。
- 園児の園での様子を、動画に撮ってお知らせした。
- お互いにカタコトで電話で話すこともあるが、込み入った話や大切な話のときは、メールにしてもらって、翻訳ツールを使っている。
- 保護者にも日本の伝統的な文化的行事（餅つきや節句など）に親しんでもらえるようにしている。好評である。
- 翻訳ツール（DeepL、Google 翻訳、ポケトークなど）を役立てている。

コミュニケーションの難しさ

- 言葉の壁よりも、宗教・文化・食が異なることから感覚が違うので対応が難しい。
- OK！と言われても、わかってもらっているか不安。
- 日本語が上手なので安心していましたが、内容が伝わっていないことがあった。
- 「ひらがな」ばかりの文書は、かえってわかりにくいと言われた。→漢字にふりがなをつけることでわかりやすくなる。
- 保護者へのお知らせ文書には苦勞する。特にコロナ対応で、保護者に周知すべき文書が行政から送られてくるが、量が多く難しく対応しきれない。

「やさしい日本語」の効果やうまくいかなかった点

- 会話で長い文になると日本語が通じにくくなるので、やさしい言葉で簡潔に話すようにしている。
- 注目してほしい言葉は大きい声で、簡潔に話すよう意識している。そうすることで外国につながる子どもだけでなく、他の子どもたちにもきちんと伝わる。子どもたちの言葉が増えていくのはうれしい。
- 行政からの通知を渡す際など、なるべく簡単に翻訳して記載しようとしているが、やさしい日本語にしにくい場合がある。そういう場合は、普通の日本語を併記する場合もある。
- やさしい日本語の場合、強い語調になる場合があるので表現に迷う時がある。やさしい日本語バージョンと、通常バージョンの2種類作って配布する場合もある。

その他

- 日本語が通じない方と、翻訳ツール、ジェスチャー、漢字の筆談などでコミュニケーションをとっていたが、中国語が話せる日本の方と話してもらい機会があり、その時の嬉しそうな顔を見て、話したいことを心配なく話せる大切さを改めて感じ、日頃のストレスを押し量ることができた。

考察

- このリーフレットを読むまで「やさしい日本語」を知らなかったという施設も多かったのですが、今後参考にし、使いたいというありがたい回答も多くいただきました。
- 園児は日本語の上達が早くて慣れていくという回答もあった一方、保護者とのコミュニケーションにはさまざまな工夫がされている様子がわかります。
- 日本語の理解度が高い兄妹や、周りの方の助けを借りているという回答はとても参考になります。様々な方を巻き込んでコミュニケーションするのは大変よいことです。一方で、気づかぬうちに通訳者に負担が偏ることがあり、注意も必要です。日本語が第一言語でない家族のために通訳を日常的に担っている子どもは、ヤングケアラーだとも言えます。
- 保護者も、ご自身で頑張って日本語が上達される方もおられます。しかし、子育てをしながら学習時間をとるのはとても大変です。生活の中で日本語に触れるきっかけを、周りの日本人が少しずつ作ってあげるのも、いいかもしれません。
- 翻訳ツールについては、「意外と便利」「必需品」という意見もあれば、「細かいニュアンスは伝わりづらい」「変な言葉になってしまい、時間がかかることがある」という意見もありました。翻訳ツールも、実はやさしい日本語で入力することで、よりよく使いこなせます。
- 以下のような関係機関との連携によって、日本語理解が難しい家庭のサポートができます。

NPO 法人国際活動市民中心 (CINGA)
TEL : 070-7462-8311 (専用ダイヤル)
<https://www.cinga.or.jp/projects/>

外国人対応者のための相談室
(電話相談、予約不要)

月曜日 10:00-15:00
木曜日 (祝日除く)